

「急性胆嚢炎におけるドレナージ胆汁の臭気レベルに関連する因子に関する後方視的研究」に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年7月18日～2020年12月31日

〔研究課題〕

急性胆嚢炎におけるドレナージ胆汁の臭気レベルに関連する因子に関する後方視的研究

〔研究目的〕

本研究の目的は、急性胆嚢炎における胆汁の臭気レベルが、胆嚢炎の臨床的病態とどのように関連するのかを明らかにすることです。

〔研究意義〕

急性胆嚢炎は common disease の1つとして日常診療で遭遇する機会が多く、その診断や標準治療は急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドラインに基づいて行われております。そのなかで、経皮経肝胆嚢ドレナージ (Percutaneous transhepatic gallbladder drainage / aspiration: PTGBD/PTGBA) は確立された手技であり、臨床の場において重要な役割を担っております。PTGBD/PTGBA を施行した際に採取された胆汁が悪臭を伴うことをしばしば経験します。その悪臭の程度は炎症や組織腐敗の程度、感染細菌の有無や種類など、様々な因子により影響を受けていると推測されますが、実臨床で経験される臭気の程度と疾患との関連性についてはいまだ不明な点が多いです。急性胆嚢炎におけるドレナージ胆汁の臭気レベルをスコアリングし、臭気レベルに影響する因子を検討し明らかにすることを目的としております。

〔対象・研究方法〕

本研究は2016年1月～2018年12月までに急性胆嚢炎の診断で経皮的胆嚢ドレナージ(PTGBA もしくはPTGBD)を施行し、胆汁の臭気レベルを評価し得た症例を対象としております。

対象となる方のカルテ情報からの下記の情報を調査します。

A. 患者様基本情報(年齢、性別、生年月日、施行時年齢、胆嚢炎の成因、既往歴、胆嚢炎診断日)、B. 手技(ドレナージの方法[PTGBD/PTGBA]、胆嚢壁の厚さ、ドレナージ胆汁の臭気レベル)、C. その他治療関連因子(抗菌薬使用の有無、血液検査所見、胆汁培養結果、入院日数)これらの個人情報が出漏することのないように患者様個人を特定できないようにコード化した後に、大規模データ集計に登録します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院消化器内科

〔個人情報の取り扱い〕

研究にあたっては、対象となる方の個人を同定できる情報は一切使用致しません。

〔その他〕

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者様に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科 講師 土井晋平

住所: 〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1

TEL: 044-844-3201 (代表)